Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第46号
2025年（令和七年） 3月7日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（2月27日～3月5日）の国際石油市場は、相変わらず、トランプ政権の関税政策の動向に加え、米中の景気動向、OPECプラスの減産緩和の確認など懸念要因が拡大し、大きく軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、27日、4月物終値は3日ぶり反発の70.35ドルで始まったが、28日反落以降、4営業日続落、5日は約6か月ぶりの安値66.31ドルで終わった。

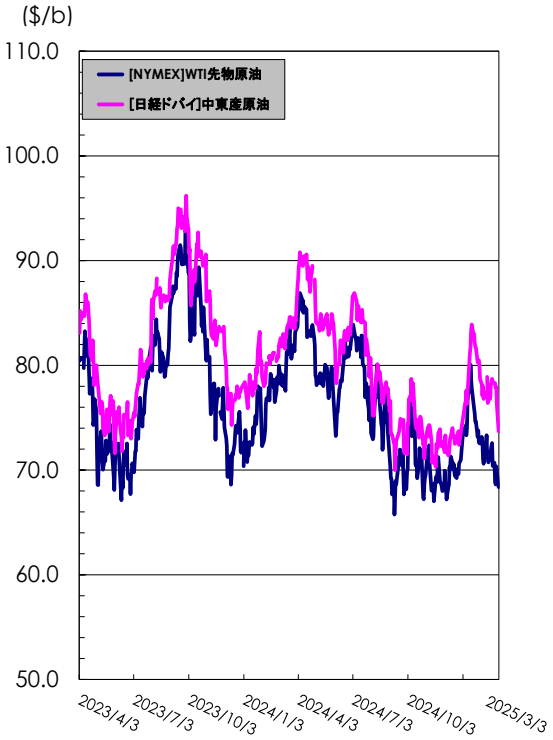
また、中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）も、前週（2月20日～26日）は77.90～78.70ドルの範囲で推移したが、当週は、2月27日77.90ドル、28日76.20ドル、3日73.70ドル、4日71.50ドル、5日71.00ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（2月20日～26日）148.92～151.13円の範囲で推移したが、当週は、2月27日149.24円、28日149.67円、3月3日150.56円、4日149.26円、5日149.87円だった。

財務省が2月27日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格78,621円で前旬比2,634円高、ドル建て80.16ドルで前旬比3.41ドル高、為替レートは1ドル/155.92円。

そのような中で、3月3日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円安、軽油も0.1円安、灯油は同横ばい（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は184.1円となった。2月27日～3月5日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、9.4円（補助金がない場合の次週予想価格194.4円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比3.1円の減額となった。

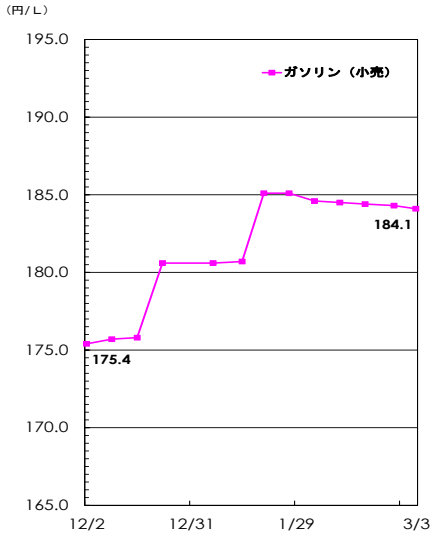
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	2/23 ～ 3/1	2,556	▼ -97	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	73.8	▼ -2.8	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	3/1	10,073	▼ -80	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	3/3	73.70	▼ -4.60	▼ -8.9
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/3	68.37	▼ -2.33	▼ -10.4
	原油CIF単価	（$/bbl）	2月上旬	80.16	▲ 3.41	▼ -3.55
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	78,621	▲ 2,634	▲ 619
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	155.92	▲ 1.47	▼ -7.78
	外国為替TTSレート	（¥/$）	3/3	151.56	▼ -0.33	▼ -0.48



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	在庫		3/1	1,538	▼ -34	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/25 ～ 3/3	86.0	➡ 0.0	▲ 5.0
		（TOCOM/中部）	3/3	88.0	➡ 0.0	▲ 9.0
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	3/3	184.1	▼ -0.2	▲ 9.6

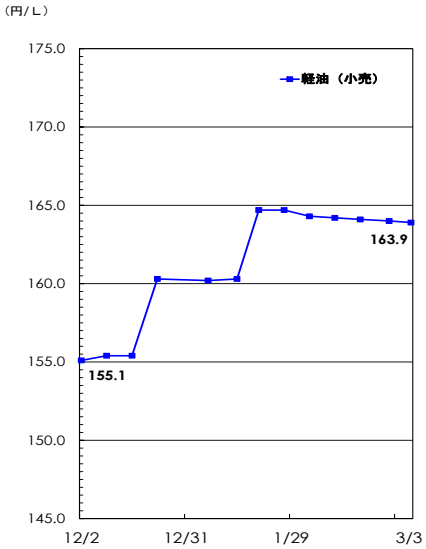
※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

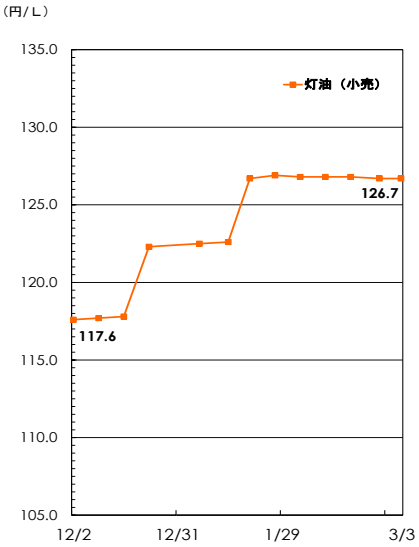
軽油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		3/1	1,291	▲ 25	▼ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/25 ～ 3/3	89.7	▲ 0.5	▲ 6.7
		（TOCOM/中部）	3/3	–	–	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	3/3	163.9	▼ -0.1	▲ 9.7

※先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/ﾘｯﾄﾙ）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	在庫		3/1	1,536	▼ -37	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	2/25 ～ 3/3	88.0	➡ 0.0	▲ 5.5
		（TOCOM/中部）	3/3	89.0	➡ 0.0	▲ 8.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	3/3	126.7	➡ 0.0	▲ 10.1



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（2月20日～26日）のNYMEX・WTI先物市場は68.62～72.57ドルの範囲で推移した。

当週、2月27日は、米トランプ政権がベネズエラの移民政策に不満を唱え、同国で操業するシェブロンへの操業許可の撤回を発表、また、OPECプラスは4月からの追加自主減産の緩和（縮小）の延期を検討しているとの報道で、当面の石油供給の減少が考えられるとして、3日ぶりに反発し、70ドル台を回復した。4月物終値は前日比1.73ドル高の70.35ドル。

週末28日は、米国がカナダ・メキシコ向け25%の輸入関税賦課（但し、カナダ産原油は10%）、中国への10%追加関税賦課発表で、世界経済の減速が懸念されること、米国の経済指標が軟化したことで、反落、一日で70ドル台を割り込んだ。ただ、トランプ・ゼレンスキー会談の決裂で、ウクライナ戦争の長期化、地政学リスクが再び意識され、下げ幅は圧縮された。4月物終値は同0.59ドル安の69.76ドル。

週明け3月3日は、この日、OPECプラスのサウジ・ロシア等有志8カ国がWEB会合を開催、8カ国による自主追加減産220万BDの4月からの段階的緩和（増産）の予定通りの開始を確認、また、相次ぐ米中両国の軟化を示す景気指標の発表で、続落した。週末以来の米の関税政策、ウクライナとの交渉決裂も需給緩和要因となり、3か月ぶりの安値となった。4月物終値は、1.39ドル安の68.37ドル。

4日は、米国は3カ国への関税賦課を開始、3カ国も報復関税等で対抗し、「貿易戦争」の発生、景気悪化の懸念から、3営業日続落した。ただ、為替相場のドル安進行を契機に原油先物の割安感、また、続落の割安感から、買い戻す向きも見られた。4月物終値は同0.11ドル安の68.26ドル。

5日は、米国石油在庫が、原油は予想を大きく上回る積み増しであったこと、米国労働統計が非農業者部門で軟化、米国景気の先行きに陰りが見えて来たこと、OPECプラスの自主減産の段階的緩和が引き続き認識されたこと、トランプ政権の関税政策を契機とした世界不況懸念が出ていることなど、4営業日続落し、昨年9月以来の安値を付けた。4月物終値は同1.95ドル安の66.31ドル。

2　海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）による3月5日発表の2月28日の米国在庫週報によると、ガソリン在庫は前週比60万バレル減だったものの、 原油在庫は同360万バレル増と、市場予想（同30万バレル）増を大幅に上回る積み増し量で、需給緩和感が広がった。。

EIAによると、3月3日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比4.7セント安の1ガロン3.078ドル（124.4円/㍑）と2週連続の値下がりで、ディーゼル小売価格は、前週比6.2セント安の1ガロン3.635ドル（147.2円/㍑）と5週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、2月28日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の486基となった。

3　国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年2月23日～3月1日に休止したトッパー能力は42.6万バレル/日で、前週に対して2.3万バレル/日増加した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は255.6万klと、前週に比べ9.7万kl減少。前年に対しては20.9万klの減少。トッパー稼働率は73.8%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては3.1ポイントの減少となった。

4　国内/製品在庫量

3月1日時点の在庫は、ジェット、軽油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった

ガソリンは153.8万kl、前週差3.4万kl減。前年に対しては9.1万kl少ない。

灯油は153.6万kl、前週差3.7万kl減。前年に対しては1.0万kl多い。

軽油は129.1万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては28.9万kl少ない。

A重油は69.8万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては1.1万kl多い。

C重油は167.3万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては7.5万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (3/1)	前週 (2/22)	前週比	
ガソリン	1,538	1,572	▼ -34	(-2%)
ジェット燃料	720	708	▲ 12	(2%)
灯油	1,536	1,573	▼ -37	(-2%)
軽油	1,291	1,266	▲ 25	(2%)
A重油	698	710	▼ -12	(-2%)
C重油	1,673	1,648	▲ 25	(2%)
合　計	7,456	7,477	▼ -21	(-0.3%)

5　国内/元売会社製品卸価格

2月25日～3月3日のドル建て中東原油価格は前週比値下がり、為替レートの円高がこれを加速したが、元売会社の卸建値は値下げしたものと見られる。ただ、補助金は3.1円減額されるため、3/6からの実質卸価格はわずかに値上がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

3月3日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の184.1円、軽油も同0.1円安の163.9円、灯油は18㍑ベースで同横ばいの2,281円（1㍑ベースでも横ばいの126.7円）。ガソリンは5週連続の値下がり、軽油も5週連続の値下がり、灯油は2週ぶりに値下げが止まった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが16府県、横ばいが4県、値下がりは27都道府県だった。全国最安値は埼玉県と愛知県の178.1円、その次は岩手県の178.3円であった。他方、最高値は高知県の193.7円。最も値上がりしたのは長崎県（同1.0円高）、最も値下がりしたのは千葉県（同1.0円安）だった。

次回調査時（3/10）のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/3)	前週　(2/25)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	184.1	184.3	▼ -0.2	23/9/4	186.5
	灯油	126.7	126.7	➡ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	163.9	164.0	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第47号）の公表は、3/14（金）14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。